地域の史跡を巡る 久米ウオーキングマップ南コース

4.3km

① 垣外遺跡

平成20年に発見された、弥生時代～中世にかけての遺跡です。弥生時代の集落跡や室町時代の建物跡など幅広い時代の遺構が確認されたほか、洪水によると思われる川砂に混入して多数の土器が出土しました。出土遺物には、土器類のほか石斧や石包丁、紡錘車（ぼうすいしゃ）[糸をつむぐ道具]などがあります。西光寺川流域には多くの遺跡が点在していますが、垣外遺跡もその一つです。なお、垣外とは久米の古い小字名です。

② 旧山陽道

昔からの主要道路である山陽道沿いには町が発達しました。

見上坂から白見ヶ森までの旧山陽道では、至るところでほぼ昔の面影を忍ぶことができます。

江戸時代には参勤交代の通り道になっていました。

③ えびす様

えびす様は、一般に漁業と商売繁盛の福の神様で、七福神の一神として人気があります。

七福神とは、えびす様の他に大黒・毘沙門天・弁財天・福禄寿・寿老人・布袋様を言います。

④ 神輿御旅所

神輿巡行が久米神社を出発して御旅所で祭祀を行う所です。

今の神輿巡行経路は、ここから下須川を通り老郷地を経て久米神社に戻ります。

毎年10月の第三日曜日の秋の例大祭の時、神輿巡行を行っています。

⑤ 市えびす

市とは交易をする人の集まるところです。

宿や市には、繁栄とご加護を願って、えびす様が祀られました。

⑥ 文化堤跡

久米村の水田は井手水による所が多く、このため干天には稲枯れの被害がたびたび出ました。約200年前花岡代官佐藤権兵衛の尽力により宿願の溜池を築造して農民の憂いを救うことができました。

この工事の労役についた村民は述べ3,550人余りと伝えられています。

久米の歴史

久米は弥生時代から人が住み、農耕を営み生活をしていました。大化の改新後は地方制度が定められ、都濃郡の下に久米郷が置かれました。南北朝時代には南朝方の大内氏が北朝方の鷲頭氏を攻めるに当たり、陶弘政が城ヶ岡（遠野尾山または城山）に城砦を築き、久米地方はその戦場となりました。

江戸時代に入り、毛利就隆が野上へ移転して地名を徳山藩と改めました。この時、譲羽村は徳山藩となり、久米村は萩本藩に置かれました。

明治維新の改革によって廃藩置県が断行され、周防と長州は山口県として発足しました。久米地区には久米村と譲羽村がありましたが、明治 17 年に二つの村が連合して久羽村となり、更に明治 22 年の町村制施行により、久米村と呼ぶようになりました。昭和 17 年に徳山市へ合併されるに伴い、久米地区と言うようになりました。

アクティブチャレンジ スポーツで元気なまちづくり

制作／久米地区体育振興会
久米地区コミュニティ推進協議会
発行／令和7年11月30日

出典参考
久米史跡まっぷ